

推薦文

奈良・平安の仏者たちの息吹き

石井公成

(仏教学者・駒澤大学教授)

『東大寺要録』との再会に想う

小峯和明

(日本古典学者・立教大学名誉教授)

東大寺史研究の確固たる基盤

吉川真司

(歴史学者・京都大学教授)

初めて東大寺図書館を訪れ、貴重書の図書カードをめくった際、「国宝」や「重要文化財」という語が記されている書物の多さに驚いた記憶がある。それほど貴重な資料を数多く有する東大寺が、「東大寺叢書」と題し、「東大寺要録」や「東大寺統要録」を皮切りに、重要な所蔵資料をフルカラーで影印して刊行していくという。

第一期となる「東大寺要録」は、東大寺だけに限らず、奈良・平安当時の仏教の状況を知るうえでこの上なく重要な文献だ。既に活字化されてはいるものの、異体字や書き込みや訂正などに満ちた原本の影印は、活字になつたものからは知らない豊かな情報を提供してくれる。字の大きさや墨の濃淡などから見えてくるものもあるのだ。これまで読めていなかつた文字、あるいは誤読されていた文字なども、この影印によつて是正することができよう。

何よりも悦ばしいのは、今回の影印によって、奈良・平安時代の東大寺の僧侶や東大寺に関わつた者たちをより身近に思えるようになることだ。こうした精細な影印は、当時の人々の息吹や体温まで感じさせ、その思いを伝えてくれるからだ。

この「東大寺叢書」が歓迎され、広く利用されることを願つてやまない。

『東大寺要録』といえば、起点は十二世紀初期の編纂で、平家の南都焼き討ち以前の東大寺にまつわる諸資料を集積統合した宝庫である。同寺を調べる際、まず本書を当たるのが分野を問わず通例となつてゐる。長年、国書刊行会の活字本に拠るのみであつたが、今回の影印本は従前の渴を癒す、誠に貴重で得難い成果であり、慶事にたえない。

私的には法会芸論をまとめ以降、この種の世界からやや遠ざかつてはいたので、久々に活字本を開くと付箋や書き込みがあり、若い頃よくこの本のお世話になつたものだと記憶が甦つてきた。記録や日記、金石文、縁起類はもとより、「延暦僧録」逸文や鑑真の「東征伝」をはじめ、鯖壳翁の杖立伝説にちなむ華嚴会起源譚などの古老相伝等、説話や法会研究からも重要な資料が満載されている。

活字本初版は一九四四年、自序に東大寺建立発願千二百年記念事業における「大東亜戦争必勝祈願」の大法会に見合う文化的事業の一環だつたことが明記される。原本は院政期に活発化する類聚運動の一環に位置づけられ、活字本が時局を投影するよう、今回の影印本も、現在の学術界を映し出す鏡となるに相違なく、写本から新たに見えてくる「東大寺要録」との再会を楽しみにしている。

東大寺は、おそらくは日本で最も豊かな歴史遺産・歴史情報を包蔵する寺院である。古代から現代に至る東大寺の歴史には、日本史の主軸をなした時代もあれば、有力な古刹としてのみ存続した時代もあるが、それを一つの流れとして緻密に再構成できるのは、まさに稀有のことと言わねばならない。先人が守り伝えてきた文化財のおかげで、寺院組織の構造も、多彩な宗教文化も、莊園支配の諸相も、さらには世俗権力との葛藤も、他に例を見ないほどクリアに知ることができる。東大寺史の解明は、まさしく日本の歴史全体の理解に直結しているのである。

近年、日本史学・考古学・美術史学・建築史学・仏教学・国語学・国文学といった多方面の研究者が連携し、新しい東大寺史研究を切り開きつつある。まさにそれに応えるかのように、このたび東大寺に所蔵される重要な古典籍が「東大寺叢書」として刊行されることになった。高精細フルカラーで提供される史料影印が、今まで誰も気付かなかつた史実の解明に寄与することは必定である。「東大寺叢書」の発刊を心より慶賀し、東大寺史研究の確固たる基盤として、十全に活用されいくことを期待したい。

東大寺叢書

東大寺叢書 1 東大寺要録 一

東大寺

● A4判
● 上製函入
● 二〇一九年三月
発売開始

法藏館



法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL:075-343-0458 FAX:075-371-0458
Homepage:<http://www.hozokan.co.jp> e-mail:info@hozokan.co.jp

東大寺所蔵の貴重な典籍類を、

高精細フルカラー影印版で

提供するシリーズ、

待望の刊行開始！

『東大寺叢書』刊行の辞

【第一期】 東大寺要録（全三巻）		【第二期】 東大寺続要録（全三巻）	
一 二〇一九年三月発売 （三八〇頁 定価：本体三〇,〇〇〇円+税）	一 二〇一三年刊行予定	二 二〇一三年刊行予定	二 二〇二〇年刊行予定
二 二〇二〇年刊行予定	三 二〇一四年刊行予定	三 二〇一四年刊行予定	三 二〇二一年刊行予定
			*以下続刊予定あり

本寺は、多くの経巻・典籍・文書を
伝えてきました。それには、すでに
一部公開したものもありますが、これ
まで公開の機会に恵まれなかつたもの
も、また多くあります。これらを、で
きるだけ原本に近い鮮明な形で公開す
ることは、本寺の長い間の願いであり
ました。

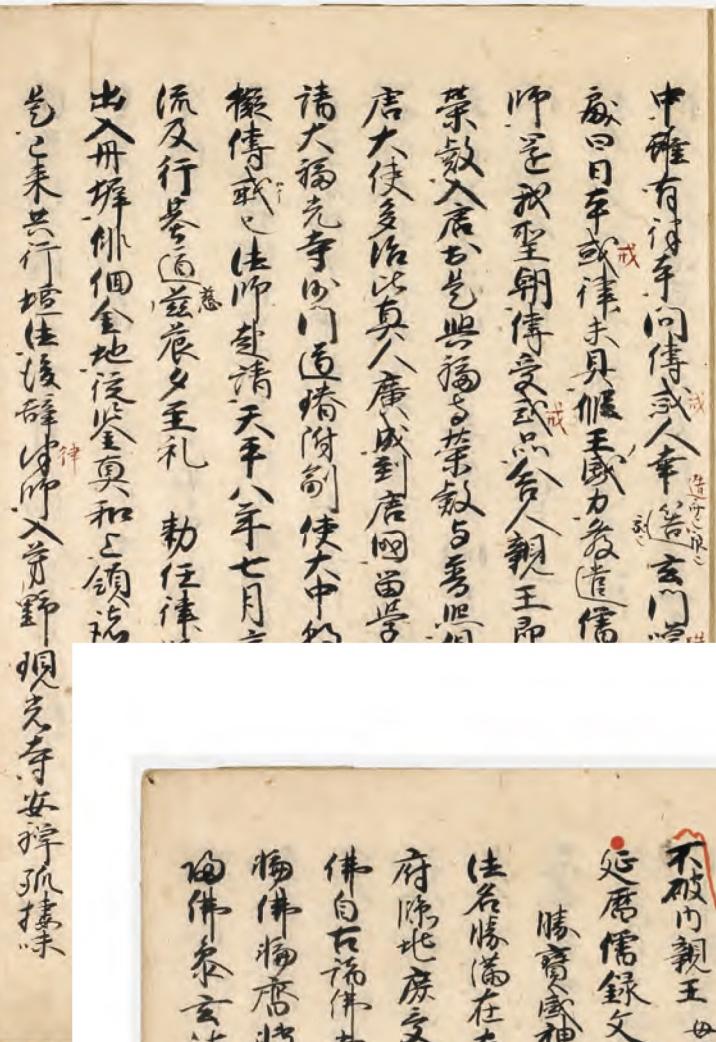
本寺は、多くの経巻・典籍・文書を
伝えてきました。それには、すでに
一部公開したものもありますが、これ
まで公開の機会に恵まれなかつたもの
も、また多くあります。これらを、で
きるだけ原本に近い鮮明な形で公開す
ることは、本寺の長い間の願いであり
ました。

東大寺叢書編纂会 上司永照
木村清孝 栗原永遠男
杉本一樹 永村眞
湯山賢一

本寺は、多くの経巻・典籍・文書を
伝えてきました。それには、すでに
一部公開したものもありますが、これ
まで公開の機会に恵まれなかつたもの
も、また多くあります。これらを、で
きるだけ原本に近い鮮明な形で公開す
ることは、本寺の長い間の願いであり
ました。

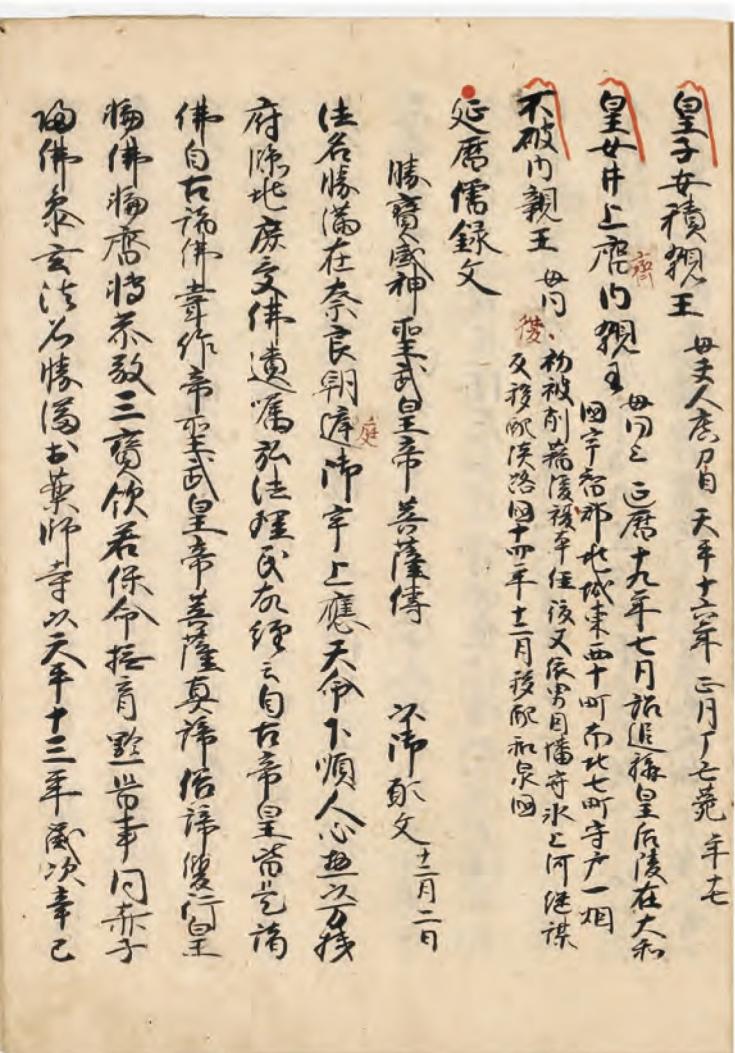
東大寺叢書編纂会 上司永照
木村清孝 栗原永遠男
杉本一樹 永村眞
湯山賢一

（50音順）



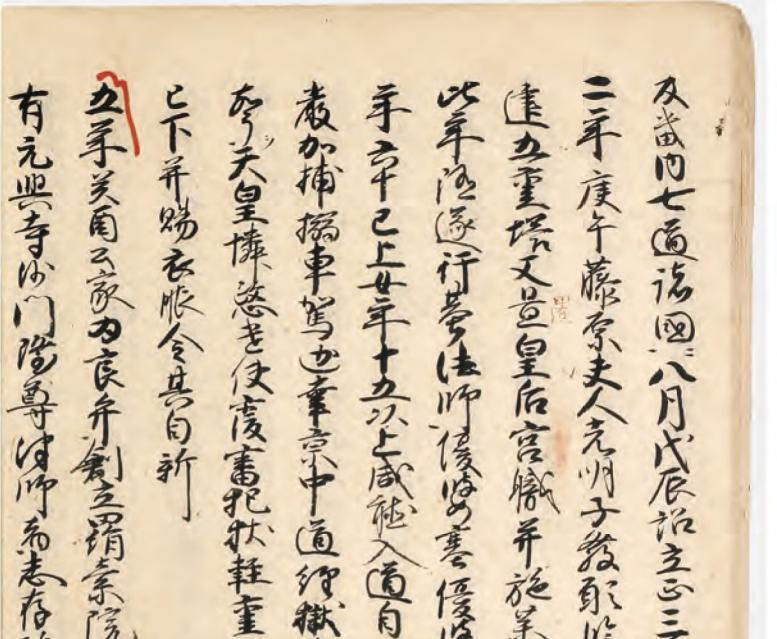
第7丁表

243 東大寺本



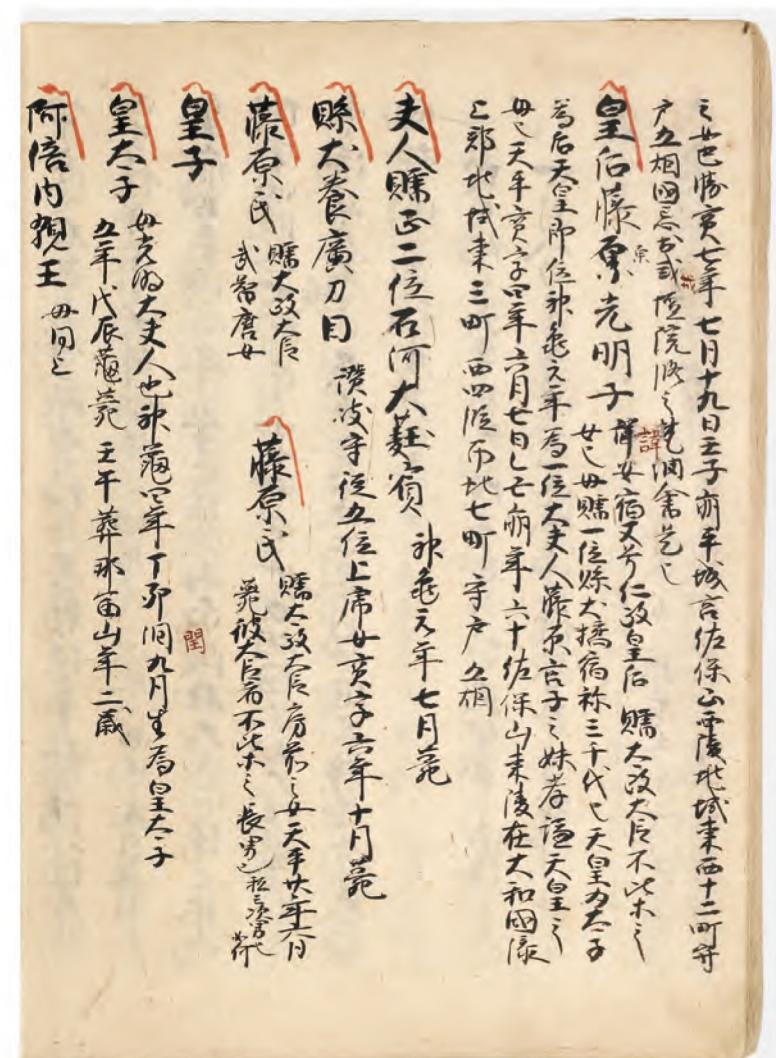
第17丁表

263 東大寺本 卷第一



第16丁表

262



第16丁表

262